

宮古市（岩手-A）における地域精神保健医療福祉システムの 再構築に向けた支援者支援に関する報告

研究分担者 伊藤順一郎¹⁾

研究協力者（主執筆者に○） ○安保寛明²⁾ 瀬川康平³⁾ 平山恵子³⁾ 田代大吉⁴⁾ 小成祐介⁵⁾
吉田直美⁶⁾

- 1) 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター
- 2) 特定医療法人 智徳会 未来の風せいわ病院
- 3) 宮古圏域障がい者福祉推進ネット
- 4) 医療法人財団 正清会 三陸病院
- 5) 社団医療法人 新和会 宮古山口病院
- 6) あすからのくらし相談室・宮古

要旨

宮古市は、人口が約6万人の都市であり岩手県沿岸の中心的都市である。精神保健福祉実施機関のうち病院や基幹的な役割をもつ福祉事業所は概ね機能を維持することができている。地域全体の様相の変化や震災後の地域化の取組みの変化などを受け、従前から地域精神保健医療福祉に関わる機関や事業所での取組みの強化など、地域化や専門化、ネットワーク化に向けたニーズが存在する。

そこで平成25年度は、当事者を中心とした普及啓発イベントや家族向け地域支援事業への協働、当事者も主体的に実践できるプログラム（WRAPクラス）や就労をテーマにした座談会の開催などを支援した。平成24年度に比して、沿岸地域の専門職者等が発案したアイデアを支援する形での支援者支援にシフトしてきている。今後も継続した支援が必要な状況である。

A. 研究地区の背景

1) 地域の概要

宮古市は、人口が約6万人の都市であり岩手県沿岸の中心的都市である。人口は岩手県沿岸部の市町村の中で最も多いが、県庁所在地である盛岡市からは北上山地を隔てて車で2時間という地勢的不利のため、人口も経済も減退傾向にある（表1）。また高齢人口比率も30%を超えている。

2011年3月11日に発生した東日本大震災により大きな被害を受けた。津波による人的被害としては、津波による家屋被害などによって震災後85箇所の避難所に8,889人が避難した。

同年8月10日に指定避難所を全て閉鎖した。

またこの震災による宮古市内の死者は407名、死亡認定者110名、合計517名であった。

住宅家屋被害は、全壊5,958戸、半壊1,174戸、一部損壊661戸、合計9,088戸であった¹⁾。

応急仮設住宅が62か所2,010戸建設され、60箇所1,713戸に対して3,883人が入居した。

なお平成23年度版障がい者白書によると、宮古市に住民票のある者で死亡した障害者数は36人であり、当時の障害者手帳所持者数3,371人の1.1%にあたる。なお死亡者のうち精神障害を有する者は7人であった²⁾。

2) 精神保健福祉医療実施機関の従事者のニーズ

平成 24 年 8 月に研究班によるインタビューが行われ、精神保健福祉医療に関わる従事者へのインタビュー調査が行われた。全体として、以下のニーズがあることが判明している。

- ・肯定的な感情を持てるようなサポート
- ・くつろぎや笑いの場の設定
- ・交流要素の強い、地域内の横のつながりを作れる場の設定

また、平成 24 年度に実施された支援プログラムの中に WRAP（元気回復行動プラン）への参加が複数あったことなどから、平成 25 年度には以下の要素を重視する必要があると予想された。

- ・当事者や一般市民にも参加しやすい機会を提供することによる、こころの元気について安心して取り扱うことのできる場をつくる
- ・家族や支援者など、一方向的な役割を担いやすい立場の方々が相互性をもつような機会の提供（例えば家族であれば、専門職者から支援や教育を受ける人という役割に限定されることなく、家族自身が主体的に家族や地域の支援に関われるようになること）

B. 支援者支援の概要

1) 当事者向けのワークショップの実施

宮古地域に住む当事者（精神障害などを持つ方）が主体的に心の元気に取り組めるよう「こころの元気サロン」と命名した WRAP（元気回復行動プラン）に関するワークショップの運営支援をおこなった。こころの元気サロンは 1 か月に 1 回行い、1 回あたり 6～10 名程度の宮古地域の当事者やボランティアが参加している。盛岡地域からは 2～3 名程度のピアサポーターが参加して、こころの元気に関係しそうなことを話しあったり体験したりを行った。

また、宮古圏域障がい者福祉推進ネットが主催した「リカバリー de 仮面座談会」を 2013 年 10 月 19 日に開催するにあたり、当事者で就職経験をもつ方を盛岡から派遣した。仮面座談会では

「しごと編」と題して、精神科への通院をしながら働く際の自分の状況の伝え方について話し合った。

2) リカバリーに関連するワークショップの実施

リカバリーの概念を体験するワークショップとして、平成 25 年 12 月 7 日、8 日に盛岡市で「リカバリーミーティングいわて 2013」を開催し、宮古地域から専用シャトルバスを運行して当事者および支援者が参加しやすくした。

「リカバリーミーティングいわて」には宮古地域からおおよそ 10 名の当事者と 10 名の専門職者が来場した。WRAP 体験クラスへの参加や、統合失調症の当事者であることを公言している方がいるお笑い芸人、松本ハウスのライブとトークショーへの参加などをおこなった。

なお、この際に同年 11 月に開催された日本精神障害者リハビリテーション学会 21 回沖縄大会について情報提供するとともに、次回大会（第 22 回大会）が岩手県で行われる予定であることも関係各位に伝え、動機づけを行った。

3) 家族向け講演会・交流会の地域協働開催

当事者や家族、地域の一般市民が、『支援を受ける人』という立場から『支援を相互に行う関係性を持つ人』への拡大を目指した。別事業により、地域精神保健福祉機構による家族のための家族学習会のファシリテーター養成研修会を平成 25 年 8 月 1 日、盛岡にて開催した。この際には宮古地域から参加した家族は 2 名であり、地域精神保健福祉機構が推奨する 3 名には届かなかった。

その後同年 9 月 27 日に家族のための講演会および交流会を開催し、盛岡ハートネット、県精神障害者地域移行支援特別対策事業との共催によっておこなった（表 2）。家族の体験発表、宮古地域での家族懇談会の事例発表、県精神保健福祉センターでの家族心理教育の事例発表、後藤雅博先生（南浜病院院長）による講演、家族交流会という形式をとった。会場には宮古圏域の保健師、宮古圏域の家族会員、宮古圏域の地域精神保健福

社に従事する職員も参加し参加者は約 80 名であった。

4) アルコール問題関連研修プログラム

平成 24 年度から継続した試みで、アルコール関連問題の専門的治療プログラムの研修へ精神保健福祉の専門職者を派遣した。東北地方では数少ないアルコール問題専門治療プログラムを有している東北会病院（宮城県）での研修を行うことを打診した。その結果、アルコール問題関連研修への医療従事者の派遣として、東北会病院（宮城県）へ三陸病院の職員 4 名を 1 週間（研修を 5 日間、派遣期間は 7 日間）派遣した。

C. 今後の課題と考察

宮古地域は、震災前後で医療機関や福祉事業所での被害があまり大きくなかった（建物や管理職者の喪失がなかった）ことなどから、地域精神保健福祉システムの再構築に向けた支援では、ハード面の整備ではなく、現在従事している地域精神保健福祉従事者や現在は支援者と見なされていなかった方々に対する支援（ソフト面の整備支援）を行うことが望ましいと考えられる。例えば、欧米のいくつかの国々では既にサービスシステムに組み込まれている ACT（包括型地域生活支援）は、おおむね人口 10～20 万人あたりに 1 チーム配置されている³⁾。すなわち人口が約 6 万人の宮古地域では ACT のようなシステムよりも、別な方法を想定することの方が有益である。

そこで、平成 25 年度は、当事者や家族が動機づけられ、当事者や家族、地域の一般市民が、『支援を受ける人』という立場から『支援を相互に行う関係性を持つ人』への転換をすることを目指した支援を行った。具体的には、WRAP（元気回復行動プラン）のように当事者や家族にも開かれている、こころの元気に関するワークショップや、家族の体験発表や交流会を含む家族に向けた集会の設定などである。家族向けの講演会・交流会は盛岡ハートネットが、WRAP クラスや当事者・家族の仮面座談会（就職・結婚編）は宮古地

域の関係者の企画であり、当事者や家族が主体的に取り組むことができるテーマや形式を選ぶことで、人口の少ない地域での精神保健福祉活動にも参加者や内容の活力が生まれるのではないかと考える。

ヒアリング調査から、今後期待されるテーマには地域移行（退院促進）、支援者の交流につながる機会、異業種（例えば教育）との協働等があり、地域精神保健福祉に限定されない支援が継続的に必要であると思われる。また、地域精神保健福祉従事者の資質向上を扱う場合の優先テーマは、当事者や家族の主体性の向上に有益なモデルや会議の持ち方に関する話題であることが示唆されている。

D. 結論

2013 年度は、宮古地域に就業する精神保健福祉医療従事者のニーズに基づいたプログラムの実現や研修への派遣を行った。継続性や互恵性を重視した支援を行っていきたい。

E. 健康危険情報 なし

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

文献

- 1) 宮古市：震災の状況と体制／被害状況.宮古市公式ウェブサイト
<http://www.city.miyako.iwate.jp/cb/hpc/Article-6543.html>
- 2) 内閣府：東日本大震災における障害者の死亡率（いくつかの県・市町から）、障がい者白書（平成 24 年度版）、59-60、2012
- 3) 瀬戸屋雄太郎、日本の ACT の概観－フィデリティ調査などから見えていること－、精神経誌 113（6）、619-626、2011

表 1. 宮古市(に該当する地域)の人口推移

年	人口	備考
1970年	79,805人	
1975年	79,214人	
1980年	78,617人	
1985年	77,024人	
1990年	72,538人	
1995年	69,587人	
2000年	66,986人	
2005年	63,588人	
2010年	59,442人	
2012年	57,136人	*住民基本台帳による推計。

※2012年以外は、総務省統計局 / 国勢調査による。

表 2. 「後藤雅博先生講演会&家族交流会」プログラム概要（平成 25 年 9 月 27 日）

時間帯	行った方
13:30～ 開会・趣旨説明	趣旨説明：黒田大介（盛岡ハートネット）
13:45～ 第1部：家族の体験発表&家族支援 の事例発表	① 家族の体験発表（盛岡ハートネット） ② 事例発表1：「レインボーネットの家族懇談会について」 高屋敷大助（レインボーネット相談支援専門員） ③ 事例発表2：「うつ病家族教室を中心とした県精神保健福祉セ ンターの家族心理教育の取り組みについて」 吉田敦（県精神保健福祉センター上席心理判定員）
14:30～休憩（15分）	
14:45～ 第2部：講演「家族も地域も元気に」	後藤雅博先生（南浜病院 院長） 「家族も地域も元気に」という内容での講演（60分間）
15:45～ 第3部：家族交流会	ファシリテーター：吉田敦、安保寛明 6-8名のグループを形成し、 家族も地域も元気になる際に感じるということについて話し合った。
17:00～ 閉会	盛岡広域圏障害者地域生活支援センター(My 夢)工藤宏行所長 クロージング：レインボーネット平山恵子（「明日があるさ」の リズムで肩たたきをする）